

☆5月の図書館イベント☆

①英語多読キャンペーン☆

【期間:5/1~6/30】

多読リーディングマラソン 4219語を読み切ろう!

フルマラソン42.195km⇒4219語でゴール♪
(10語=1m換算)
*24頁×5冊程度でも達成可能(読書量約40分)

易しいレベルからスタートしてみよう!

はじめるなら、今がチャンス!



☆完走者特典!☆
輸入菓子(米国)
"CROWN Fun Pop"
ポップコーン 99g

抽選で10名に進呈

「地下書庫ミステリーツアー」

普段は生徒だけの立ち入りが禁止の
図書館・地下書庫にお連れします。

5/10 (水)

①昼休みの部、②放課後の部
随時スタート

*クイズやミッションに挑戦!

「二万冊収蔵のハンドル式書架」を操作したり、
「謎の銅像」「不思議なはしご階段」「図書館の怪談」
などの秘密が明らかに!

参加者は、図書館カウンターに集合!



雑誌付録・抽選会 雑誌バックナンバー・お持ち帰り会 古い英字新聞・お持ち帰り会

5/17(水)13時 スタート!

雑誌:アニメージュ, SCREEN, 日経エンタテインメント!
ROCKIN' ON JAPAN, INROCK, ナンバー ほか
※このイベントは各学期に実施予定



図書館にあります!

本屋大賞受賞作 & /ミネート作!

本屋大賞は、全国書店員が決める文学賞。本と顧客を一番よく知る書店員ならではのセレクト。一般読者の感覚に近く、読みやすさや娯楽性など親しみやすい作品が多いのが特徴。直木賞・芥川賞よりも売り上げ部数が伸びる賞として注目されています。

自分自身に「ルーツ」や「よいところ」は必要?



「I」西加奈子/ポプラ社 7位

米国人と日本人の両親に愛情深く育てられたアイは、シリアからの養子であった。豊かな生活を楽しむ一方、祖国をはじめ世界中に起きる悲劇の犠牲者を思うと、自分の身代わりを命を落としたようにも感じて気がふさぐ。血縁や国籍など、自分のルーツを持たないことがどれほど孤独で不安か、アイの苦悩を通じて知ることができる。結局、自分らしさを獲得する過程で「ルーツ」より大きなインパクトを与えたものは何だったのか?見届けてほしい。

少し怖い夢をみているような 不思議な世界

「夜行」森見登美彦/小学館 8位



京都で学生時代を過ごした5人は、10年ぶりに鞍馬に集った。仲間の一人だった女性が消息を絶った場所だ。夜、各自が旅先で体験した不思議な話を語り始める。物語は、理屈を超えた怪しさに包まれ、在るはずのものが消え、無いものが見えたり、人が別人格に豹変したりする。最後には、行方不明だったのはお前だと言われ…。パラレルワールドなのか?消えた女性の真相は?謎解きの鍵を見つけて、この怪異ミステリーを解釈したくなる。

最初から器用な人間ばかりじゃない

「コンビニ人間」村田沙耶香/文藝春秋 9位



読後、思い出した。人と話すことは苦手だけどセリフのある舞台では生き活きと演じられるという女優の話を。型にはまることで格好がつくことは、確かにある。主人公は、社会不適合気味のコンビニ店員30代独身女性。マニュアル

のおかげで上手に「人間」になれている。口にするのはコンビニ食、夢でもレジを打ち、身体はコンビニで満たされている。感情回路が壊れた感じで共感しにくい、本作は若い読者ほど支持しているという。世間の常識をかざして見下してくる人間が陳腐に見えてきたころ、むしろ彼女がピュアに思えた。(千葉)

ラストのページは最後まで絶対見ないで!

「蜜蜂と遠雷」恩田陸/幻冬舎 大賞



新たな才能の出現が世間の注目を集める「芳ヶ江国際ピアノコンクール」。全く異なる個性・人生を歩んできた4人の演奏家を中心に、コンクールの模様が描かれる。同じ曲でも演者が違えば、こんなに描写が違うのか!と作者の音楽を語る言葉の美しさに感動を覚え、本当に曲を聴いているような気持ちになります。

とはいえ音楽の知識が足りない私は、もっぱらYouTubeで曲を聴きながら読んだのですが…。手に取るのを躊躇うほどの長編ですが、読み進むにつれて審査結果が気になり、睡眠不足は間違いなし!

「ゲルニカ」を軸に過去と現在が見事に交錯!

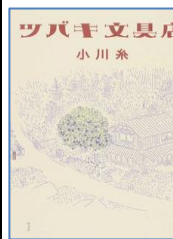
「暗幕のゲルニカ」原田マハ/新潮社 6位



多国籍軍のイラク空爆に当たり、国連本部の「ゲルニカ」のタペストリーが暗幕で覆われたという事実から構想を得たアートサスペンス。ピカソが「ゲルニカ」を描いた経緯、その後「ゲルニカ」がたどった数奇な運命を知るほどに、教科書でしか知らなかったピカソの魅力に引き込まれていく。しかし、ピカソの掲げた「芸術による反戦」は成しえるのだろうか?深く考えさせられる作品です。

鎌倉の丁寧な暮らしにაცოგაღამის

「ツバキ文具店」小川糸/幻冬舎 4位



海と山々に囲まれた古都鎌倉。主人公の雨宮鳩子は今では珍しい「代書屋」の11代目。年賀状の宛名書きからラブレター、絶縁状、亡き夫からの手紙まで依頼は幅広く(というか風変わり)、様々な事情を抱えた依頼人になり代わり、文面や字体まで当人になりきって代筆をするのが彼女の仕事。そして、そんな彼女の日常を彩るちょっぴり変わった友人・知人たち。読んだ後は、ほっこりした気持ちできっと誰かに手紙で思いを伝えたいくなるはず。(梅谷)



熱くて温かい三世家族の大奮闘!

「みかづき」森絵都/集英社 2位

塾業界と教育に関わり続け奮闘し続けた家族三世代の長編力作!物語は、まだ学習塾が認知されていなかった昭和36年から始まり、塾に通わせたくても経済的に厳しい家庭が増えた現代へと50年近くに及び。学習塾開校ブーム、文科省と塾業界との対立、少子化による塾縮小など波乱万丈な時代を背景に、登場人物達の困難、苦悩、成長が描かれる。教育現場に関心のある人もない人も、それぞれの生き方、結末に触れて欲しい。

事件解決?!と勘違いするほどのリアリティ!



「罪の声」塩田武士/講談社 3位

父の遺品のカセットテープを再生してみると幼い時の自分の声が流れてきた。しかしそれは昭和最大の未解決事件で恐喝に使われた音声と同じだった!ある新聞の企画取材にかり出された一人の記者。この二人が、それぞれこの未解決

事件を調べ直していく中で真相が明らかになっていく。1984年発生「グリコ・森永事件」を、作者執念の取材と着想で、構想15年、満を持して世に送り出した作品。作品の力強さにぐいぐい引っ張られ、虚か実か、わからなくなるほど!

独りぼっちは嫌だけど...

「ハリネズミの願い」トーン・テレヘン



長山さき訳 新潮社 翻訳1位

人づき合いが苦手だけれど、誰かを家に招待したいと手紙を書きだすハリネズミ。だけど、本当に誰かがやってきたら、どうもてなしづらい?思い悩み過ぎて手紙を出せない。現代、SNSなどですぐに知り合って繋がっているつもりでも、人間の本質は寂しがり屋で臆病なのかも。今、この本が贈り物に人気らしい。引っ込み思案なハリネズミに共感できるからか?(田中)

★英語多読を始める前に知ってほしいこと★



学校の授業が基本で重要なのは大前提!一方、多読では「英語で読書すること」を楽しもう。注意点は、背伸びしたレベルに挑戦しても意味がないということ。語数多く漫然と読むより、しっかり内容把握できるものを読むほうが学習効果は高いです。図書館では入門的なガイダンスを随時行っています。